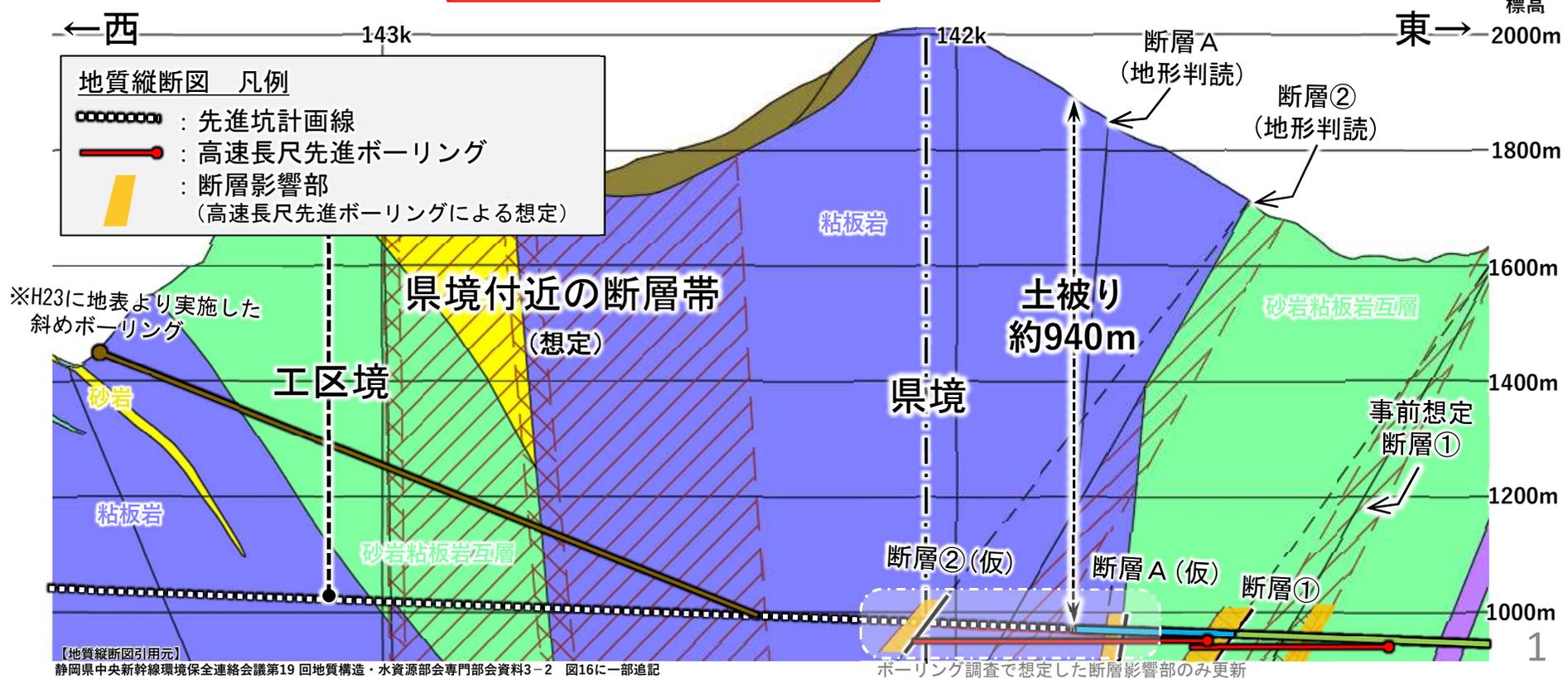
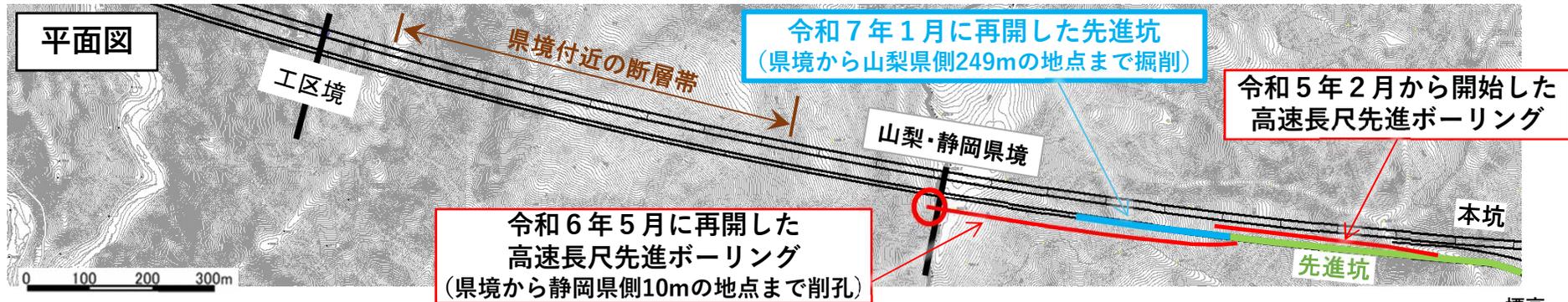


# 山梨・静岡県境付近の先進坑の掘削状況

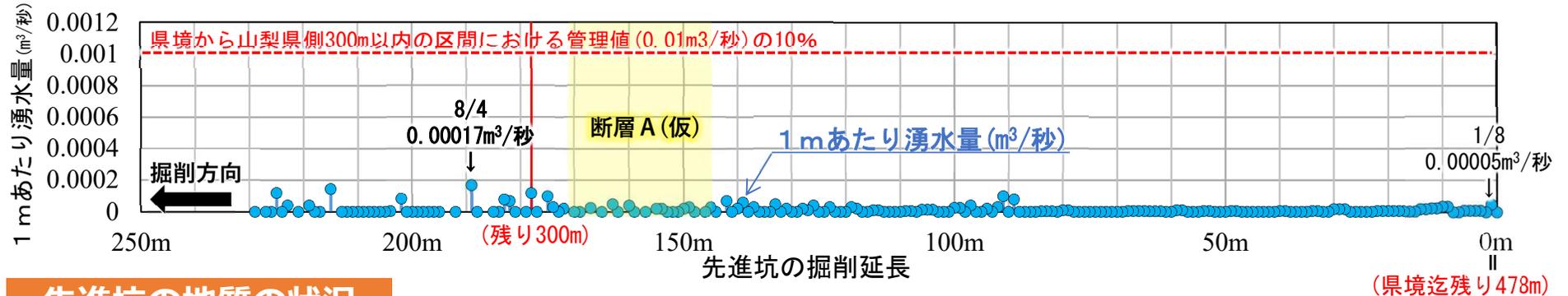
○令和6年5月に再開した高速長尺先進ボーリング調査は、孔口から511m(県境から静岡県側10mの地点)まで削孔し、一旦終了。その後、令和7年1月8日以降、先進坑掘削を再開し、地質及び湧水の更なる確認を進めている。  
 ○9月27日時点で、県境から山梨県側249m(再開位置から229m)まで掘削。



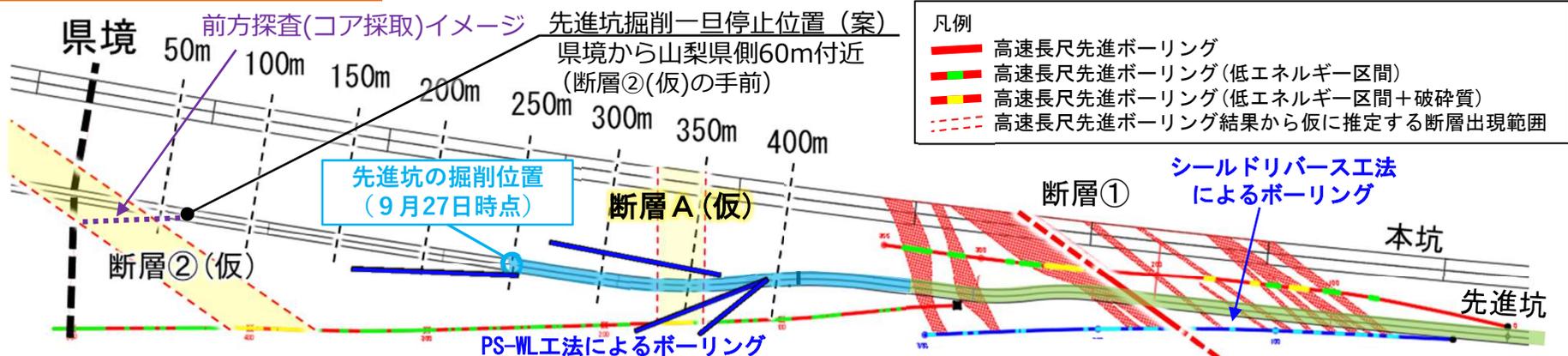
# 湧水量と地質の状況

## 先進坑の湧水量

- 管理値の「1mあたり0.01m<sup>3</sup>/秒(10L/秒)」と比較したところ、最大で1.7%と、引き続き非常に小さい状況。



## 先進坑の地質の状況



- 断層 A (仮)は抜けたと思われるものの、高速長尺先進ボーリングの削孔エネルギー値が低い区間が断続的に出現しており、トンネルの内空変位を抑えるため、円形断面として支保耐力を強化し慎重に先進坑の掘削を進めている。
- 高速長尺先進ボーリングの削孔エネルギー値が低い区間については、随時 PS-WL工法により、詳細な地山性状を確認している。
- 先進坑は『県境から山梨県側60m付近』で一旦停止し、前方探査(コア採取)等の結果を踏まえて、県境から確保すべき離隔を検討。その後、県境付近より、県境を越えて高速長尺先進ボーリングを実施。

